Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより20号

1950（昭和 25）年頃撮影の正門

1949（昭和24）年4月に、新制大学として青山学院大学が発足した頃の正門の様子。「青山学院」の門標は國澤新兵衛院長事務取扱（当時）の揮毫、「青山学院大学」の門標は豊田實院長兼大学長（当時）の揮毫である。また刻字は、いずれも著名な篆刻家である松丸東魚のものと言われている（子息談）。
右の写真は、同年4月26日に行われた大学開校入学式での豊田實大学長の式辞の様子。
新制大学として青山学院大学が発足してから今年で70周年を迎えた。

青山学院史探訪　―地の塩、世の光を体現した人―
「故 小原安喜子先生を偲んで」　杉山和子 ― 2

資料センター所蔵資料紹介
「安藤太郎関係文書」「安藤太郎日記」に見る青山学院　小林和幸 ― 4

資料センター利用状況・日誌抄 ― 6

受入れ資料 ― 7

利用案内ほか ― 8

故 小原安喜子先生を偲んで

元国立療養所大島青松園副園長　杉山　和子

2004年２月26日に小原安喜子先生は天に召されました。急性白血病でした。昨年秋以来入院されておられたのは存じており、重篤な状態を見てもいましたが、1月27日におめにかかった時、とてもお元気そうで「ベッドサイドに立てるようになったので、これからリハビリに励みます」とうれしそうにおっしゃったのが印象に残っていて、こんなに早く召されてしまうとは思っていませんでした。

小原先生はその生涯のすべてを、ハンセン病を病む人々、その家族、回復者の為に献げ尽くしたと言って良いでしょう。先生は、1933年４月21日東京に牧師の子としてお生まれになりました。幼少時代から弱い者に対して関心が深かったようです。先生自身がお書きになった文章によりますと、1939年の冬、先生の中に小さな芽生えが創造主によって与えられ“朝鮮（当時の呼び方）で働きたい、あのアフリカ伝道に挺身したマリー・スレッサーのように働きたい”との願いを持ったとあります。

先生のご両親は教会の働きに専念しておられましたが、ハンセン病を病みつつ伝道の志に燃えておられた先生方を尊敬し、そのお働きに協力することを一つの使命として大切にしておられました。

先生は第二次大戦中に洗礼を受けられ、キリスト者としての歩みを踏み出されました。終戦後は青山学院女子高等部に通い、ハンセン病の父ダミアンの伝記など読む機会があったようです。また同校先輩の犀川さん（元沖縄愛楽園園長犀川一夫先生夫人）によって投げかけられた「ハンセン病」という実践課題に反応して、クラスから療園に贈り物を始めたりしました。犀川先生ご夫妻からは「ハンセン病」を実践課題とする上での考え方にご指導を頂き、朝鮮、ハンセン病が「朝鮮のハンセン病」という形になり、双葉はゆっくりと成長してゆきました。

小原安喜子氏の呼びかけにより、青山学院の女生徒たちから贈られた文具や絵本を手にしている長島愛生園の子どもたち　昭和23年1月10日（犀川珠子氏旧蔵）

青山学院大学基督教学科在学中からハンセン病療養所めぐりを始め、東大衛生看護科在学時代には、リハビリテーション医学の観点からハンセン病を考え始め、ご自身の仕事としてハンセン病患者の四肢の再建外科、殊に手の外科を選ぶ決心をされました。千葉大医科に進学し、在学中に沖縄を含め日本に在るハンセン病施設16ヵ所を全部巡り終えました。この時訪問した療養所で松田ナミ先生と出会い、学費の援助を受けることが出来ました。この時の感謝の気持ちを忘れず、機会があれば松田先生を訪問し、その晩年を慰めておられました。

インターンは、ハンセン病の病棟があることで、京大病院を選ばれ、皮膚病特別研究施設の西占貢教授のもとでハンセン病について学び、手の外科は整形外科伊藤鉄夫先生のもとで学びました。

その後犀川先生のおはからいでJOCS（日本キリスト教海外医療協力会）の台湾ワーカーとして3年間（1965～68年）台湾のハンセン病医療に携わりました。

帰国後は京大の皮膚病特別研究施設でハンセン病医療を行い、整形外科で手の外科の研鑽につとめました。

私が、小原先生に初めておめにかかったのはこの時期でした。ハンセン病患者の為の専門医が少なく、患者達は良い治療を受けられず悲惨

な状態におかれているので、是非現状を見に来てくださいと誘われて、1969年京大皮膚特研を訪れました。それから今日まで35年にわたり小原先生との交友関係は続きました。ハンセン病医療にたずさわる同志として、同じ信仰を持つ信友としてともに励ましあっていきてきました。そのどの時を思い浮かべても、先生の神と人とに奉仕する姿勢は一貫しておられました。

小原先生は京大での研修の他に国立療養所大島青松園でも診療を行い、更に京都洛南教会の副牧師の任を果たす多忙な中で、念願であった韓国のハンセン病患者の為に働く準備を整えられました。小原先生の韓国での働きを支援する“小原さんを支える会”が発足し、1972年12月韓国全羅南道にある愛養再活病院（Wilson Leprosy Center and Rehabilitation Hospital）で働くために渡韓致しました。この施設はハンセン病センターであると共に、リハビリテーション病院として、ハンセン病を一般疾患の中で治療する病院であり、アメリカ南長老教会の宣教団体が発展させた施設です。ここでハンセン病の早期発見のための皮膚科と整形外科、外科外来での仕事を受け持ち、その他保健社会部のハンセン病対策に協力する移動診療活動と地域住民に対する啓発活動なども行いました。

小原先生の任地を訪れた時、韓国語を自由に駆使して診療を行っておられる姿に接して、この国の人々を愛し、仕えるために払われた先生の努力が、いかに大きいかを思わされて、胸があつくなりました。

当初予定されていた韓国での医療援助は2年間でしたが、延長され愛養再活病院の他小鹿島療養所での活動も含め、1972年から1980年の計８年間にわたりました。この間に支える会のメンバーも必要に迫られて、色々なことを学び大きく成長させて頂きました。

小原先生の青山学院大学基督教学科、東京大学衛生看護科、千葉大医科でのすべての学びまた京大皮膚特研でのハンセン病の研修、京大整形外科での研修のすべては、韓国での医療援助の8年間に大きな花を咲かせることが出来まして、先生も大変喜んでおられました。この後も韓国への援助は、度々の短期間の医療援助や、韓国のハンセン病専門医や医療スタッフ育成のために奨学金を提供するなどと形を変えて先生が病で倒れるまで続けられました。

韓国から帰国されてからは、国立療養所邑久光明園と京大皮膚科を併任し、患者一人一人と医療だけでなく全人間的に関与しながら、ハンセン病を病んだが故にこうむった様々な痛みを緩和するために尽力されました。

光明園退職後は、ハンセン病国際パーソナルボランティアとして、ハイチ、東チモール、ウガンダ、ネパールで国外のハンセン病医療の一端を担いました。

先生の生涯をかえりみると、走りづめの一生であったように思われます。ハンセン病の人々のために労することが先生の願いであり、喜びであるのは承知していました。それでもせめて晩年の一時期にはゆっくりとした時を持っていただきたかったのですが、あまりに早く天に召されてしまいました。今は天父の許で安らいでおられると思います。

小原安喜子略歴

1933年4月21日　現・新宿区に生まれる
小学校在学中に受洗
1952年3月青山学院女子高等部卒業
1956年3月青山学院大学文学部基督教学科卒業
1960年3月東京大学医学部衛生看護学科卒業
1964年3月千葉大学医学部医学専門課程医学科卒業
1964年京都大学病院皮膚病特別研究施設勤務（研修医）
1965年4月医師国家試験合格
1965年12月～1968年JOCSより台湾麻瘋救済協会へ派遣される
1969年～1972年京都大学皮膚病特別研究施設に学ぶ
大島青松園勤務。同時に京都大学整形外科勤務
1972年12月日本キリスト教団の牧師となる
1972年～1980年韓国ハンセン病医療に携わる(愛養再活病院 Wilson Leprosy Center and Rehabilitation Hospital等)
1981年～1998年国立療養所邑久光明園勤務。同時に、京都大学病院勤務。退官後、ハンセン病国際パーソナルボランティアとして国外のハンセン病医療の一端に加わる（ハイチ、東チモール、ウガンダ、ネパール等々）
2002年から、入退院を繰り返す
2003年9月骨髄異形成症候群からの急性白血病により清瀬の複十字病院に入院
2004年2月26日、午後1時32分永眠　70歳

（『日本ハンセン病学会雑誌』73巻3号　2004年より転載）

参考図書紹介：
・『韓国の癩医療に参加して』小原安喜子編　1980年
・「ハンセン病医療の街道を来て」小原安喜子著（『青山学院と地の塩たち』青山学院大学プロジェクト95編　2001年　p361）

「安藤太郎関係文書」「安藤太郎日記」に見る青山学院

大学文学部史学科教授　小林　和幸

本稿では、資料センター所蔵の「飯久保貞次旧蔵安藤太郎関係文書」について紹介すると共に、「安藤太郎日記」に記載されている青山学院関係記事について、少しく言及する。

安藤太郎の略歴は概ね以下の通りである。安藤は、1846(弘化３)年４月志摩鳥羽藩医安藤文鐸の長男として江戸四谷に生まれた。安井息軒から漢学を坪井芳洲・箕作秋坪に蘭学・英学を学び、幕府の軍艦操練所、横浜陸軍伝習所での修学を経て、戊辰戦争では榎本武揚の配下として五稜郭で戦った。以後、榎本の信頼を得て維新政府でも活躍することとなる。維新後、大蔵省ついで外務省に入り、岩倉使節団に随行、帰国後、香港副領事や上海領事、ハワイ総領事を務めた。ハワイ総領事在任中に美山貫一から受洗し、帰国後は禁酒運動に従事する。その後、第一次松方正義内閣で榎本が外務大臣であったときに、外務省通商局長兼移民課長となり、榎本が第二次伊藤博文内閣で農商務大臣を務めたときには、同省商工局長に就任している。

資料センター所蔵の「安藤太郎関係文書」は1991(平成３)年９月に寄贈された飯久保貞次(本多庸一から受洗、青山学院神学部卒業、安藤記念教会牧師などを務めた)旧蔵の文書群である。本文書については、故沼田哲史学科教授を中心に整理され、沼田教授編で目録が作成されている。また、史料の概要や安藤宛榎本武揚書翰が沼田教授により紹介されている(『青山史学』14号、『青山学報』157号、並びに『日本歴史』585号・同612号)。本関係文書中には、明治初年の外交関係や移民関係、禁酒運動関係の興味深い史料も多い。今後、折を見て重要史料を紹介できればと考えている。

今回は、この関係文書を整理する際に、安藤記念教会から複写収集した「安藤太郎日記」に記載された青山学院関係記事を紹介する。

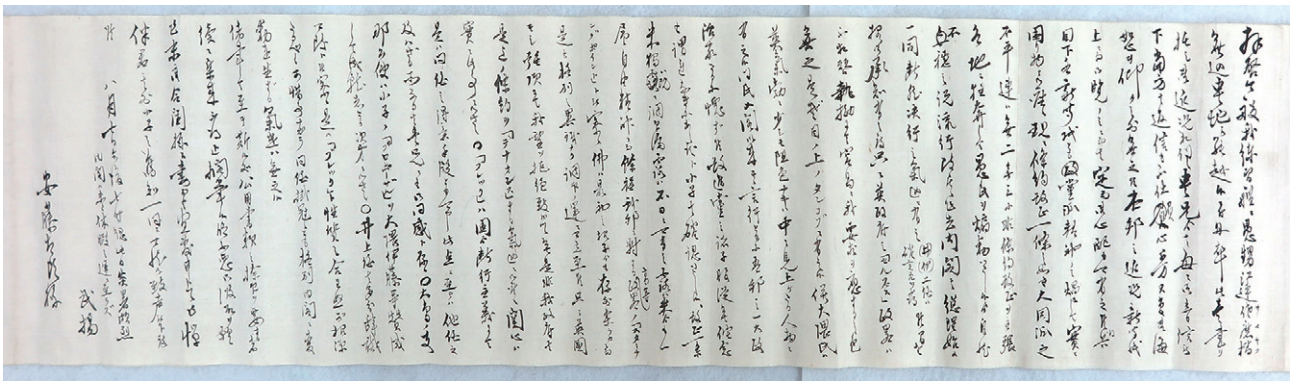
安藤太郎と青山学院との関係は深い。1889(明治22)年11月、ハワイ総領事の任を解かれ帰国した後、青山学院創設の功労者ジュリアス・

安藤太郎肖像写真（『安藤記念教会七十年史』1987年10月刊より）

ソーパー博士と深い親交を結ぶ。ソーパー博士は、安藤の生涯の事業となる禁酒運動を援助し(『恩師ソーパル博士』所収、鵜飼猛の回顧)、また安藤は青山学院の運営に、商議会員(理事に相当する)などの役職を通じて関わることとなったのである。安藤の商議会員就任は、1896(明治29)年1月の「AOYAMA GAKUIN(青山学院一覧　英文)」で確認できる。この時、青山学院財産保管会員(理事、Board of Trustees of AOYAMA GAKUIN)として、商議会に列したのである。また、1906(明治39)年に青山学院財団が設立されると、同財団理事に就任している。

安藤太郎の日記には、そうした商議会や理事会出席の記事が散見される。その記述は、断片的ながら、興味深い内容も見られる。

例えば、1899(明治32)年、青山学院や宗教主義の学校に大きな打撃を与えた文部省訓令第12号への対応を諮った商議会(理事会)についての記述がある。文部省訓令第12号とは、法令上の学校での宗教教育一般を禁止したもので、キリスト教主義の諸学校は、それぞれ異った対応をとっ



明治22年8月7日付、安藤太郎宛榎本武揚書翰（資料センター所蔵）

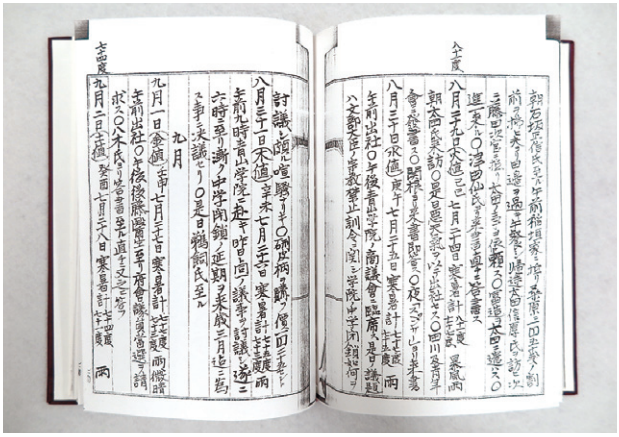
た。立教学院では、中学についてはキリスト教教育とは一線を画し中学校の維持を選択し、青山学院は、同志社・明治学院などと共に、学制上の中学を廃した(中学部を中等科と名称変更。その後、文部省と交渉を重ね徴兵猶予等の特権を回復)。キリスト教系学校がこの訓令に対して行った抵抗運動については、例えば『一般の教育に関する文部省訓令第十二号に対する運動顛末概略及意見』などの報告書がある(資料センター所蔵)。ただし、青山学院が方針を決めた商議会については、岡田哲蔵の回顧(岡田哲蔵著『本多庸一伝』141頁以下)の他、同時代期の史料が余り見当たらない。安藤日記は、以下の如く伝えている。

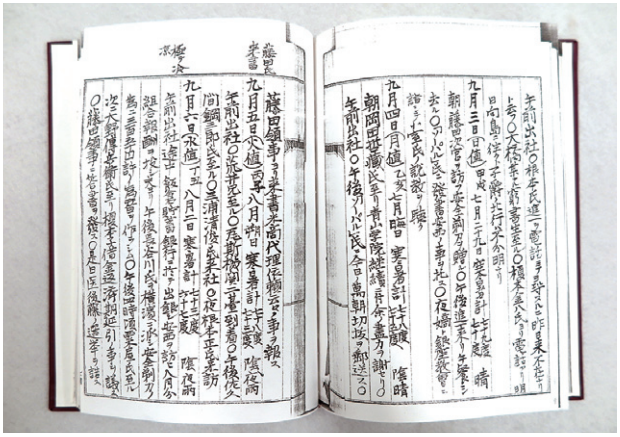
> 八月三十日（略）午後青山学院ノ商議会ニ臨席ス。是日ノ議題ハ文部大臣ノ宗教禁止訓令ニ関シ学院ノ中学閉鎖如何ヲ討議シ頗ル喧騒ナリキ。
>
> 八月三十一日（略）午前九時青山学院ニ赴キ昨日ト同一ノ議事ヲ討議シ遂ニ六時ニ至リ漸ク中学閉鎖ノ延期ヲ来歳三月迄ニ為ス事ニ決議セリ。
>
> 九月四日（略）朝岡田哲蔵氏至リ、青山学院継続ニ付、余ノ尽力ヲ謝セリ。

岡田は、キリスト教教育を守るため外国人理事が中学部を廃し各種学校としての存立を主張したのに対し、日本人理事はそれでは衰退が免れがたいとして難色を示しつつ「主義は枉げ難い」として人格感化を主眼とする中学維持を主張したと述べている(前掲、岡田回顧)。安藤の日記を見ると、このときの会議が紛糾したことや、安藤もまた岡田と同意見であったことが推定されるのである。

安藤の日記からは、キリスト教会の人脈として、先に述べた美山貫一や銀座教会の牧師を務めた鵜飼猛との深い関係、ソーパー博士との長年にわたる交流がわかる。また、1910(明治43)年10月18日には、桂太郎首相とソーパー博士の面談を仲介し、同月20日には、来日中のガウチャー博士と桂首相、寺内正毅朝鮮総督との面談の仲介を行ったことなども記されている。安藤の明治政府中枢に繋がる人脈が、青山学院の関係者と政界とが繋がりを持つために役立ったものと思われる。

このように「安藤太郎日記」により、青山学院に関わる歴史の一端が明らかになることもある。今後も検討を続ける必要があろう。





「安藤太郎日記」（資料センター複写収集資料）。原本は安藤記念教会所蔵

資料センター利用状況等（2018年度後期利用状況）

1. 月別利用者数（　）内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
展示見学者数		206	(166)	406	(158)	475	(135)	146	(49)	89	(63)	223	(171)	1545	(742)
資料閲覧者数		15	(18)	12	(12)	7	(20)	18	(7)	13	(8)	6	(7)	71	(72)
閲覧者の区分	本学学生	2	(1)	3	()	0	(1)	12	(1)	6	(1)	1	(1)	24	(5)
	現教職員	3	(5)	1	(3)	1	(3)	2	(2)	4	(1)	0	(2)	11	(16)
	旧教職員	5	(7)	4	(6)	2	(9)	0	(3)	1	()	0	(2)	12	(27)
	校友	1	(5)	0	()	0	(2)	2	(1)	0	()	2	()	5	(8)
	他大学教員	1	()	1	()	2	(3)	0	()	1	(5)	1	(1)	6	(9)
	牧師	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	一般	3	()	3	(3)	2	(2)	2	()	1	(1)	2	(1)	13	(7)
利用の目的	教会史編集	0	()	0	()	0	()	0	()	0	(1)	0	()	0	(1)
	学校史編集	4	(9)	4	(3)	2	(9)	0	(4)	0	()	0	()	10	(25)
	著述・論文作成	6	(1)	4	(1)	3	(5)	12	(2)	7	(3)	1	(2)	33	(14)
	伝記資料調査	0	()	2	()	1	(1)	1	()	1	(1)	2	()	7	(2)
	記録類の調査・研究	0	(2)	0	(2)	0	()	3	()	0	(1)	3	(2)	6	(7)
	その他	5	(4)	3	(4)	1	(6)	2	(1)	5	(2)	2	(4)	18	(21)
資料の種類	青山学院史関係（AA）	7	(12)	5	(8)	4	(18)	4	(5)	7	(3)	5	(2)	32	(48)
	メソジスト教会関係（B）	0	()	1	(1)	1	()	0	(1)	0	(3)	0	(3)	2	(8)
	英語・英文学関係（旧F）	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	明治期キリスト教関係（旧G）	5	()	1	()	1	(2)	1	()	0	(1)	0	()	8	(3)
	一般分類図書	2	(2)	6	(3)	1	()	13	(1)	7	(2)	1	()	30	(8)
	その他	1	(3)	0	(1)	0	()	0	()	0	()	0	(1)	1	(5)
資料の形態（閲覧点数）	図書	41	(53)	25	(22)	6	(88)	56	(18)	62	(33)	8	(31)	198	(245)
	マイクロフィルム	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()	0	()
	写真（含ネガ）	0	()	0	()	0	(3)	1	()	1	()	0	()	2	(3)
	アルバム	1	(4)	0	(11)	0	()	0	()	0	(1)	2	()	3	(16)
	個人資料ファイル	0	()	1	()	1	(1)	1	()	0	()	1	()	4	(1)
	ビデオ・DVD等	3	(1)	0	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	3	(2)
	その他	0	()	0	(1)	0	()	0	()	0	()	0	()	0	(1)

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数（　）内は前年度の数

		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
件数		9	(5)	5	(3)	4	(2)	10	(2)	14	(2)	11	(2)	53	(16)
質問者の区分	学生	0	()	0	()	1	()	0	()	0	()	1	()	2	()
	現教職員	5	(2)	1	()	0	(1)	5	(2)	5	(2)	5	(1)	21	(8)
	旧教職員	0	()	0	(2)	0	()	1	()	3	()	2	()	6	(2)
	校友	0	(3)	1	()	0	()	2	()	1	()	0	()	4	(3)
	一般	4	()	3	(1)	3	(1)	2	()	5	()	3	(1)	20	(3)
質問内容	写真所蔵調査	1	(4)	0	()	1	()	2	()	3	()	3	()	10	(4)
	文献所蔵調査	1	()	2	(1)	1	()	3	()	3	()	4	()	14	(1)
	事項調査	5	(1)	3	(1)	2	(1)	5	()	8	(1)	4	()	27	(4)
	その他	2	()	0	(1)	0	(1)	0	(2)	0	(1)	0	(2)	2	(7)

3. 日誌抄

2018年10月

・展示ホール、グループ見学１件
・歴史資料館検討ワーキンググループ打合せ　1回
・展示検討小委員会開催
・第2回資料センター運営委員会開催
・他部署主催会議に出席　2回
・大学名誉教授来室、原稿作成のため　1回
・大学教授来室、150年史編纂のため　21回

11月

・展示ホール、グループ見学１件
・特別展示「青山学院を支えたサーバント・リーダー～米山梅吉・はる、間島弟彦、万代順四郎～」開催（11/6～12/22）
・初等部3年生の授業で特別展示見学
・女子短期大学のゼミで展示ホール見学
・鎌倉市長来校、面談、展示ホール見学
・AOYAMA VISION研修会に参加　4名
・青学TVの取材（本部礼拝堂の十字架について）　3回
・大学指定校推薦入試応援業務
・他部署主催会議に出席　2回
・大学名誉教授来室、原稿作成のため　5回
・大学教授来室、150年史編纂のため　14回

12月

・展示ホール、グループ見学１件
・初等部3年生の授業で特別展示見学
・ガウチャーカレッジ学長、副学長来校、展示ホール見学
・『Aoyama Gakuin Archives Letter』19号発行
・人事部主催サーバント・リーダー育成プログラム研修会講師を務める
・防災館体験学習に参加　１名
・青山学報編集委員会に出席
・他部署主催会議に出席　3回

・大学名誉教授来室、原稿作成のため　3回
・大学教授来室、150年史編纂のため　13回

2019年1月

・展示ホール、グループ見学２件
・大学の授業で展示ホール見学
・鎌倉市役所を訪問（市長へ資料返却のため）
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会（立教大学）出席１名
・短大ギャラリー展打合せに出席
・大学入試センター試験応援業務
・他部署主催会議に出席　3回
・大学名誉教授来室、原稿作成のため　1回
・大学教授来室、150年史編纂のため　18回

2月

・押絵雛展示（2/7～4/27）
・短大ギャラリー展打合せに出席
・安藤記念教会訪問、所蔵資料閲覧
・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン　5回
・大学入試業務
・展示検討小委員会開催
・他部署主催会議に出席　1回
・大学教授来室、150年史編纂のため　17回

3月

・展示ホール、グループ見学2件
・「2016年度の寄贈資料展」開催（3/12～4/27）
・福岡女学院資料室スタッフ来室
・横須賀市役所を訪問（教育長と万代会館保存の打合せのため）
・鎌倉市国宝館、同市文化財施設課職員来室
・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン　6回
・青山学報編集委員会に出席
・大学学位記授与式関係応援業務
・書庫（4階）天井材撤去工事（3/2～3/13）
・展示ホール天井スポットライト増設
・他部署主催会議に出席　3回
・大学教授来室、150年史編纂のため　17回

2018年度後期受入れ 資料

（学内部署からの資料は除く）

寄贈

●**吉田武（校友）様**　『在りし日　人としての万代順四郎』佐々木邦編　1964年9月
●**日本基督教団八雲教会様**　『八雲教会百年の歩み　この地に生きた信徒たち』日本基督教団八雲教会　2018年8月
●**松山市教育委員会様**　『語り継ぎたいふるさと松山百話　広がれ！ふるさと松山の心』松山市教育委員会編　平成30年10月
●**中塚淑子（校友の親族）様**　鯉の絵　長谷川朝吉（校友号：敬光）画　制作年不明
●**鎌倉市教育委員会・鎌倉市中央図書館様**『鎌倉図書館百年史』、『鎌倉市図書館100年のあゆみ』2011年7月
●**青山学院大学電気電子工学科同窓会様**　「青山学院大学電気電子工学科同窓会報」第22号　2018年9月
●**佐藤晟雄（校友）様**　「わたしのスケッチブック」（16）佐藤晟雄著　2018年12月
●**青山学院高等部同窓会様**　「青山学院高等部同窓会報」76号　2018年11月
●**下河邉史郎（校友）様**　「緑ヶ丘通信」青山学院大学山岳部OB会　No.118　2018年8月、No.119　2018年12月
●**兼子記美子（校友）様**『青山女学院史』1973年11月、専修科生送別会文科２年上演「ヴェニスの商人」写真（次頁写真①）　1943年3月、クラス会写真（向坊先生をお迎えして）1964年6月
●**吉岡勝見（校友）様**　「グリーンハーモニーOB NEWS」No.58　2018年11月
●**竹内正徳（校友・元職員）様**　ネクタイピン　青山学院大学体育会剣道部　昭和38年入部時（次頁写真②）、昭和39年寒稽古皆勤賞（次頁写真②）　ほか２点
●**藤井多恵子（校友）様**　『American & English Songs　アメリカ・イギリス歌曲集』藤井多恵子編著　2018年10月　ドレミ楽譜出版社（次頁写真③）
●**青山学院大学文学部英米文学科同窓会様**　会報「Aoyama Sapience」第40号　2018年12月
●**西尾豊（校友）様**　クラス写真　S20年4卒会　2001年10月　ほか６点
●**米山梅吉記念館様**　『超我の人 米山梅吉の聲音』　平成20年1月　米山梅吉記念館
●**大橋尚泰様**　『復刻版　アラス戦線へ　第一次世界大戦の日本人カナダ義勇兵　On to the Arras front』諸岡幸麿（校友）著　大橋尚泰解説　2018年12月　えにし書房
●**髙山弘三（校友の親族）様**　『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書　改譯』第４版　昭和25年　日本聖書協会
●**ロータリー米山記念奨学会様**　「よねやまガイド　Rotary Yoneyama Memorial Foundation」
●**遠藤真名美（校友・職員）様**　青山学院大学理工テニス部創立50周年記念パーティ　次第、“50AGU RIKO”のロゴ入りテニスボールのキーホルダー　2019年1月
●**氣賀知恵子（校友）様**　「古田十郎展1983年11月21日～30日」絵葉書
●**高木須江（校友の親族）様**　青山学院中學部第六十期卒業生　校友会・中學部聯合歓送迎会写真　1943年３月１日
●**伊藤えりか様**『川島郷の鈴木家－地と人と－』別所梅之助著　昭和９年
●**櫻井成嗣（元大学教員親族）様**　「明石山房叢書・さくらい氏蔵」の彫りのある原稿用紙版木　ほか４点
●**日本キリスト教団安藤記念教会様**　『2017年100周年記念　安藤記念教会の歩み　主より賜った恵みすべてをささげて』2018年2月　安藤記念教会100周年準備委員会
●**木村光彦（大学教員）様**　『讃美歌』　1907年５月　警醒社、教文館
●**川崎司様**　『清冽な水脈　透谷・愛山・明石・坎堂』川崎司著　2019年２月　三弥井書店
●**望月宏計様**　『明治期の子どもに対するキリスト教教育の研究　子ども向けキリスト教教書の検証を通して』望月宏計著　2018年度修士論文
●**内田徹（高等部教員）様**　「研究報告」第19号　1993年3月　青山学院高等部総務委員会　ほか5点
●他大学・学校　年史・紀要類多数

購入

●『わたしの家族の明治日本』ジョアンナ・シェルトン著　滝沢謙三、滝沢カレン・アン訳　2018年
●『東海之暁鐘』第壱號　明治23年　東海暁鐘社
●『神を拝むべき理由』神学博士フルベッキ述　大正3年　基督教書類会社（次頁写真④）
●『オルガンの保存と簡単な修理法』日本楽器製造株式会社著　昭和34年
●『井深大　一業一人伝』山崎武敏著　昭和43年
●オルガン教科書２冊綴り（①『初等オルガン教科書』天谷秀・多梅稚編　明治38年　開成館　②『小学唱歌用オルガン・ピアノ楽譜』東京音楽学校編　明治32年）
●『戦後の教育』国民新聞社編　大正７年　民友社
●『日通歴代社長五傑列伝』一隅社編集部編　昭和33年

通運業務研究会
- 『土佐史談』37号　國澤新兵衛ほか著　昭和6年　土佐史談会
- 『虎の巻　The notes and extracts about railway & engineering works by H. Hirokawa』 廣川廣四郎、國澤新兵衛著　明治34年　國澤新兵衛
- 『鹿嶺遺稿』國澤新兵衛序　加藤忠夫編、発行　昭和12年
- 『佛教名訓集・キリスト教名訓集』現代編輯局編　昭和10年（写真⑤）
- 『青年讃美歌』讃美歌委員会編　昭和16年　讃美歌委員会
- 『ニューナショナル第４リードル直訳』蒲生俊訳　小方仙之助校閲　明治29年　尚古堂（写真⑥）
- 『国語科授業の実際』冨山房編集部編　昭和14年　冨山房
- 『家庭科学体系』別所梅之助ほか著　昭和４年　家庭科学体系刊行会
- 「英文学研究部誌」第三号　青山学院文学部英文科会　1935年
- 「文科会」第三号　青山学院文学部英文科会　1937年
- 「英文科会会誌」九号　青山学院文学部英文科会　1940年
- 『KOHANASAN　小花三』BOSTWICK著　明治25年　長谷川武次郎（写真⑦）
- 『OYUCHASAN　おゆちゃさん』BOSTWICK著　明治25年　長谷川武次郎（写真⑧）

写真①ヴェニスの商人

写真②ネクタイピン２種

写真③『アメリカ・イギリス歌曲集』

写真④『神を拝むべき理由』

写真⑤『佛教名訓集・キリスト教名訓集』

写真⑥『ニューナショナル第４リードル直訳』

写真⑦『KOHANASAN　小花三』

写真⑧『OYUCHASAN　おゆちゃさん』

青山学院資料センター利用案内

●展示ホールの見学
青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立寄りください。
公開時間　月～金曜日　▼9：30～17：00（入館は16：30まで）
　　土曜日　▼9：30～13：00（入館は12：30まで）
※「2017年度の寄贈資料展」を開催中です。（～8/6（火））
※夏期期間（8/5～9/17）の公開時間は、9：30～16：00（月～金曜日）です。
※8/4（日）～8/6（火）は大学オープンキャンパスのため、9：30～17：00まで開室します。

●資料閲覧
青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・ＦＡＸ・メールにてご連絡ください。
閲覧時間　（いずれも昼休み11：30～12：30）
月～金曜日　▼9：30～17：00　土曜日　▼9：30～13：00
※夏期期間（8/5～9/17）の閲覧時間は、9：30～16：00（月～金曜日）です。

●休室日
日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他学院が定める休日
夏期期間：
一斉休業期間<8/8(木)～8/14(水)>、8/7、8/21、8/28の水曜日、8/17、8/24、8/31、9/7、9/14の土曜日

●問い合わせ
〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4―4―25
　　間島記念館2階　青山学院資料センター
　　TEL　03（3409）6742
　　FAX　03（3409）8134
メールアドレス　ag-archives@aoyamagakuin.jp
青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらもご覧ください。
http://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html

資料センター運営委員

院長（職務上）	山本与志春	高中部（高）　教員１人	佐藤　隆一
常務理事１名（職務上）	楯　香津美	高中部（中）　教員１人	森田久美子
学院宗教部長（職務上）	大島　力	初等部　教員１人	窪田　靖
大学図書館長（職務上）	野末俊比古	幼稚園　教員１人	太田奈那子
大学　教員１人	小林　和幸	総局長（職務上）	石黒　隆文
女子短期大学　教員１人	清水　康幸	資料センター事務長（職務上）	岩本　智実

資料センタースタッフ人数

資料センター事務：
　専任　3人　　派遣　1人
　パートタイム　3人
　（週3日：2人、週5日：1人）
『青山学院150年史』編纂事務室：
　大学文学部助手（出向）　2人
　パートタイム　2人
　（延べ週４日）

Aoyama Gakuin Archives Letter
青山学院資料センターだより　20号

青山学院資料センター編・発行
2019年7月25日発行

印刷：三美印刷㈱
1,500部